

**製品名: TGF ベータ 1/3 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe87649**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から 12 ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:44,47 kDa; Observed MW:44,12 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TGF beta 1/3
別名	CED; LAP; DPD1; TGFB; TGFbeta
遺伝子 ID	7040, 7043
SwissProt ID	P01137, P10600
免疫原	ヒト TGFβ1 の組み換えタンパク質

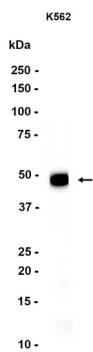
**背景**

この遺伝子は、TGF-β（形質転換成長因子 β）スーパーファミリータンパク質の分泌リガンドをコードしています。このファミリーの

リガンドは様々な TGF- $\beta$  受容体に結合し、遺伝子発現を制御する SMAD ファミリー転写因子のリクルートメントと活性化を引き起こします。コードされているプレプロタンパク質は、タンパク質分解によって潜在性関連ペプチド (LAP) と成熟ペプチドを生成します。LAP は、成熟ペプチドホモダイマー、LAP ホモダイマー、および潜在性 TGF- $\beta$  結合タンパク質からなる潜在型、または成熟ペプチドホモダイマーのみからなる活性型で存在します。成熟ペプチドは、他の TGF $\beta$  ファミリーメンバーとヘテロダイマーを形成することもあります。このコードされているタンパク質は、細胞の増殖、分化、および成長を制御し、インターフェロン  $\gamma$  や腫瘍壊死因子  $\alpha$  などの他の成長因子の発現と活性化を調節することができます。この遺伝子は腫瘍細胞で頻繁に発現が亢進しており、この遺伝子の変異はカムラティ・エンゲルマン病を引き起こします。 [RefSeq 提供、2016年8月]

## 研究分野

## 画像データ



TGF ベータ 1/3 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して K562 細胞抽出物のウエスタン ブロット分析を行いました。